

2024年11月23日～24日

<初日 11月23日> 輪島市の避難所 Evacuation Center Headquarters  
ピースボート災害支援センター 国内災害事業部/防災・減災教育事業部  
コーディネーター 辛嶋友香理

1. 地震に関して 当時「1月1日」ピースボートは被災地に入り。

「1月2日」東京オフィスからガスと食べ物を被災地に供給。

「1月3日」状況の評価と支援 「1月5日」炊き出し。

「電気、ストーブ、安全な場所」避難者の命を繋げる。

輪島市での避難者は1175人 死者は130人

避難者は輪島市外への避難が多い「金沢市など」

役場の職員も被害者であり避難者「専門家が必要」

2. 地震・水害被災地現在の状況

過疎問題により再構築が困難。地震後に修復が完了したものの、水害により再度被災。水道が機能しない場所多数。道はジェットコースターのように危険。これらの理由により避難者は帰宅できない。今まで避難所で流行した感染症「ノロウイルス、コロナ、インフルエンザ」。11か月が経過してもまだ緊急事態が続いており、復旧は見られない。

3. 輪島市活動内容

- ① 物質支援 ②生活水支援 ③洗濯支援 ④各種支援調整（栄養を考慮した食べ物、避難者の健康を守る、災害関連死の対策、各種問題を調整「例：自衛隊と民間の炊き出し」飲食店に注文、アルバイト、楽しみイベントの企画など）
- ⑤入浴支援 ⑥避難所の運営支援 ⑦仮設家電支援 ⑧行政支援

4. 水害者 厳しい被害状況 9月からの避難者

- ① 地震の影響で仮設住宅に引っ越した数日後にまた避難「日本で初めてのケース」新しい仮設住宅は2025年2月か3月を予定。ただし、雪のため遅れる可能性が高い。
- ② 地震による被害を免れた住宅も水害により被害。
- ③ 冬は極寒であり、危険な状況「要介護、アクセス困難、遠い」
- ④ ピースボートのスタッフも被害者
- ⑤ ゴールを見えなくなる怖さ「心を折れる「見えた未来がなくなる」

5. ピースボートのジェンダー視点に関して

なぜ女性の活動が多いですか。

答え：①女性は細かいところまで目が届き、問題を見つけることが得意。地域のために女性を増やしている。

- ② バランスをとるため。行政の中に男性が多い「～90%」。

リスク高い。女性が「安全に寝る場所」を探すことが大事。全て男性に任せられない「避難生活・災害ボランティアセンター」

## 6. その他の質問とコメント

リーダーの声? 年上の方。若者は声出すのが難しい  
寄付が足りない。水害への寄付は震災時より少ない。水害による被害は甚大。震災の前にコロナの影響で、会社が減少し「ホテル、観光、タクシー」の経営状況は大変であった。  
被害者は復興による未来が見れない。子育ては大変。若者は他の町へ出たい。高齢者のみ残ることを希望。超少子高齢化。  
ピースボートによる支援がまだまだ必要。行政は NPO に頼りすぎ。

---

### 参考：他の参加者

ピースボート災害支援センター 理事/事務局長 兼 NPO「Japan Platform」

代表理事 上島安裕

ピースボート災害支援センター 理事 合田茂広